

膵胆道疾患における最適な EPLBD の治療戦略について

◆ 研究の対象となる方

2015年1月1日～2026年4月30日に当院でERCPの処置を受け、かつEPLBDを施行された患者様

◆ 目的・方法

【研究の目的】

胆管結石などの治療において、内視鏡を使って十二指腸の出口を大きく広げる治療（EPLBD:内視鏡的大口径バルーン拡張術）は広く行われていますが、治療のあとに「膵炎（すいえん）」という合併症が起きることがあります。

本研究では、人工知能(AI)技術を用いて、治療前に撮影されたCT画像から患者さんの「膵臓のボリューム(大きさや形)」を正確に測定します。これに血液検査の結果や患者さんの背景(年齢や身体の機能など)を組み合わせることで、どのような患者さんで治療後の膵炎が起きやすいかを予測する仕組み(予測モデル)を開発することを目的としています。これが可能になれば、将来的に患者さんお一人おひとりのリスクに応じた、より安全な治療戦略を立てることができるようになります。

【研究の方法】

過去に当院でこの治療を受けられた患者さんの診療データ(カルテの記録やCT画像など)を振り返って調査する「観察研究」です。AIを用いてCT画像から膵臓の形を立体的に解析し、治療後に膵炎が起きたかどうか、およびその重症度との関連性を統計学的に分析します。

◆ 研究に使用する情報

年齢、性別、身長、体重、血液検査結果(生化学検査値など)、CT画像データ、内視鏡治療(ERCP/EPLBD)の実施記録、術後膵炎の発症有無およびその重症度、合併症の有無

上記のように、日常の診療の中で通常通りに記録された情報のみを使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

◆ 個人情報の取り扱い

本研究の成果は学会等での公表を予定しておりますが、個人が特定されないよう加工した情報を用いますので、プライバシーは守られます。また、本研究以外の目的で使用することはありません。

◆ 研究への協力について

診療情報等が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象といたしません。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することができます。

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

問い合わせ先	福岡県済生会福岡総合病院 肝胆膵内科 部長 大野彰久 住所:福岡市中央区天神 1-3-46 電話:092-771-8151(代表)
--------	--